



# 帰国生の学校選び A to Z

## ●第3回●

### 帰国生入試は易しいって本当？

帰国生入試は国内生の入試に比べて易しいというイメージがあるようですが、本当なのでしょうか。確かに帰国生入試は特別入試であり、一般入試とは別枠にて実施されたり、少ない入試科目にて選考されたりするケースもあります。しかし、中学入試や高校入試では帰国生の定員枠を定めていないという学校も多く、入試科目の負担も決して軽いとは言えません。入試科目は、中学入試では国語と算数の2教科型が多く、理科や社会を加えた4教科型や英語を加えた3教科型もあります。高校入試では英語、数学、国語の3教科型が多く、理科や社会を加えた5教科型もあります。さらに、入試問題も帰国生専用問題ではなく、一般入試と同一問題が課される学校が目立ちます。つまり、海外においても日本の受験生と同様な対策が必要なのです。

一方で、帰国生入試には作文と面接のみで選考する学校がありますし、中には書類のみで選考する学校もあります。しかし、それは多くはありません。また、このような入試は特別入試として実施されている場合も多く、英検合格や TOEFL のスコアなどで英語力を証明する必要があります。特別入試の受験資格は学校によって異なりますが、中学入試では英検 2 級、高校入試では英検準 1 級、TOEFL iBT で 79 以上を要求する学校もあります。TOEFL iBT79 は、アメリカの 4 年制大学に留学可能な英語力にも匹敵します。つまり、とても高い英語力が要求されているのです。

このように帰国生中学入試、高校入試では、一般入試にも対応できる日本語での学力が必要であり、英語力を活かそうとするならば高い実力が必要であり、決して易しいということはありません。



執筆者：丹羽 筆人  
(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail [bunkyo@ujeec.org](mailto:bunkyo@ujeec.org) / Phone & Fax 1-855-926-1140